

松江地区 里親だより

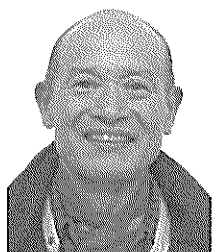
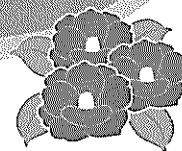
第11号

(平成29年3月)

発行：島根県松江地区里親会

〒690-0823島根県松江市西川津町3090-1(中央児童相談所内)

電話：0852-21-3168 FAX：0852-21-3163



「出会いとつながりと・・・」

松江地区里親会会長 柏木 直人

松江地区里親会の出前講座も2年が過ぎて、声を掛けて下さる方や団体が少しずつだけどが増えていきます。里親の実態を初めて知ったという声はありますが、里子や里親を温かく迎え入れて下さる心の交流が芽生えていて、日常の中にもつながりの深さを有り難く感じるどころです。

ひとり、里子の生活実態を紹介します。Nちゃんは来た当初、返事もせず食事をしようともせず、ただ里親の目を気にしてばかりでした。親権者という大人から離されたNちゃんには、信頼できる大人がどこにもいなかったのでしょうか。本当の笑顔を見せるまでの時間は短くありませんでした。ひと月程したある日、嘔吐をした服を着替えさせ寝かしつけていると、「この家はゲロしても怒らないね。」という、Nちゃん自身の言葉を初めて耳にした時、里親の知らない、本人の生活の一部を垣間見たようでした。何よりもNちゃんにとって、親権者ではない信頼できる新しい大人が誕生した瞬間でもありました。そして、1年が過ぎた頃のことです。ラジオから流れるニュースの「1歳の子どもが若い母親の手により亡くなった。」に素早い反応で、「ああ、この子もこの家に来たらよかったね。」……。

子どもが里親の家庭や施設での生活を共にしているその時、親権者となる実親や親族はどんな生活に触れているのでしょうか。親元から離れた子どもには、ひと言では言いあらわせない沢山の事情がありますし、子どもを強引に引き離しに至ったというのも、事実とはかなり離れたものでもあります。子どもが生きて行く為にある権利を、最大限に優先させるなら、安心の得られる生活基盤を考えるのが、実は大人としての責任ですし、それがきっと社会の力で育てることに繋がっているのだと思います。

里親や施設は、事情の許せる限り子どもの安心を託されている養育里親という家庭（或いは家庭的）ですから、養子縁組里子と違い、多くの子どもはいずれ親権者のもとへ帰っていく前提があります。子育ての心配や失敗と思えることは、一般にどこの家庭でも普通にあることです。心配の種を子どもに植え付けるのだけはしないでください。里親や施設は子どもの為に、子どもの安心と成長を共に考える場所です。出来ることなら、安心を手にした子どもが成人になる道程に、一緒に寄り添っていきたいものです。

「里親だより」によせて

島根県中央児童相談所長(松江地区里親会顧問) 石橋 達也

昨年末に厚生労働省が公表した人口動態統計では、2016年に生まれた赤ちゃんの数(出生数)が98万1,000人と推計され、統計を取り始めた1899年以降、初めて出生数が100万人を割り込み、第1次ベビーブーム(約270万人、いわゆる「団塊の世代」)、第2次ベビーブーム(約210万人、いわゆる「団塊ジュニア」)当時の出生数の半分以下となりました。

一方で、昨年8月には、2015年度中に全国の児童相談所が児童虐待相談として対応した件数が初めて10万件を超えて過去最多となったことが発表され、大きな反響を呼びました。2005年度は3万4千件余り、2010年度は5万6千件余りでしたので、10年間で約3倍、5年間でも2倍近い増加となっています。

県内でも、2015年度には395件の虐待通告があり、過去5年間で最も多い通告件数となりました。これらの通告に対して児童相談所が調査を行った結果、「虐待」として対応した件数は155件にのぼっています。

こうした状況の中、昨年5月に成立した改正児童福祉法では、児童相談所や市町村の体制強化、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援など、児童虐待防止に向け様々な制度改正が行われています。

また、里親支援についても一層の充実強化が図られ、新規里親の開拓から児童の自立支援まで、一貫した里親支援に取り組んでいくこととなりました。

今年はこの新たな取り組みが本格的に始まる節目の年になります。児童相談所では、今後、虐待防止に向けた取組をより一層充実させていくとともに、困難を抱える児童や家族に対し、できるだけ早い時期から支援の手が届くよう、関係者の方々と連携を図っていきたいと考えています。

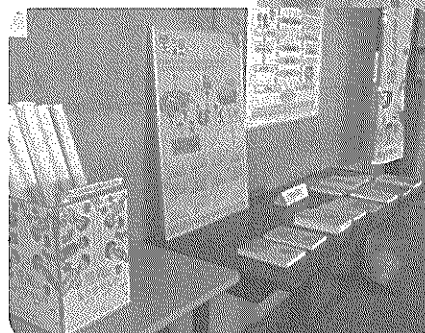
引き続き里親の皆さまの御理解と御協力をお願い申し上げます。

10月「里親月間」の様子

NPO法人日本こども支援協会の「全国一斉里親制度啓発『One Love キャンペーン』企画」に賛同し、松江地区として10/4「里親の日」に会長・副会長の3名にご参加いただき、街頭啓発としてイオン松江玄関前にてチラシ等の配布を行いました。

また、10/6～26は島根県立図書館でパネル・ちらし等の展示を行いました。

図書館展示



全国一斉街頭啓発
キャンペーン

H28 松江地区里親会活動報告

松江地区里親会員数 35組 (平成29年1月末現在)
新規加入会員 4組

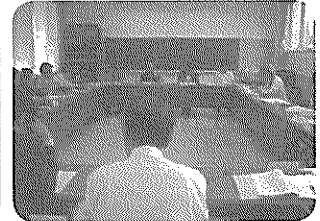


4月 新たな出会い

県庁地域福祉課より石橋所長 (里親会顧問)
中央児相隠岐相談室より宮阪副所長 (里親会事務局長) が仲間入り!

5月 総会 役員改選・年間事業決定

長年にわたり里親会活動にご尽力いただいた
御神本顧問がご勇退されました



御神本さん、長い間大変お世話になりました

中国地区里親大会 (米子)

三河里親さんが表彰を受けられました

6月 地区交流会 (安来: 錦織里親さん宅どろんこ広場)

バーベキュー大会 参加者 44名



8月 島根県里親大会 (津和野)

柏木里親さんが表彰を受けられました



地区交流会の様子

9月 松江・出雲地区合同交流会 (松江地区主催)

藤原准教授 (県立大学短大部) による講演と昼食交流会 参加者 33名

10月

里親月間にあわせ、10/4「里親の日」全国一斉街頭啓発、各所でのパネル展示など様々な場所で里親制度について情報発信を行いました (写真2ページ下段)

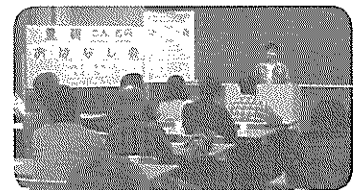


おはなしサロン (一般参加型「里親さんとのおはなし会」)

養育体験発表、グループ別おはなし会他 参加者 39名

隠岐地区交流会 (隠岐の島町)

昼食交流会 参加者 12名



11月 虐待防止街頭啓発キャンペーン (JR 松江駅構内)

会長・副会長 2名参加

里親さんとのおはなし会

全国里親大会 (水戸)

参加者 2名

おはなしサロン (養子縁組里親の会)

茶話会 参加者 19名

★恒例の「懇親会」は
歓送迎会 (4月) 納涼会 (7月)
忘年会 (12月) を行いました。
来年度も皆様のご参加を
お待ちしております。

～会員寄稿～

思い出いっぱいを残して

三河 鈴子 (養育里親)

今年の冬は暖かく穏やかかと思いきや、突然の寒波となり久々の大雪だ。この年齢になっても雪の大好きな私は心のわくわくが止められない。早朝の薄暗く人気のない中を、風のないのを見て私は少し離れた神社へ向かって歩いた。

そこは里親を始めたばかりの時、里子たちと来て以来だからもう12年ぶりにもなるだろうか。足跡ひとつない真綿のような雪の積もる長い石段を数えながら登ると、里子たちとジャンケン遊びをした事を思い出した。境内で手を合わせ挨拶を済ませると、開いた目の前のお堂にはお弁当を広げて食べた子どもたちの笑顔、そして見回すと走り回って遊んだ光景が次々と昨日の事のように鮮明に浮かんだ。

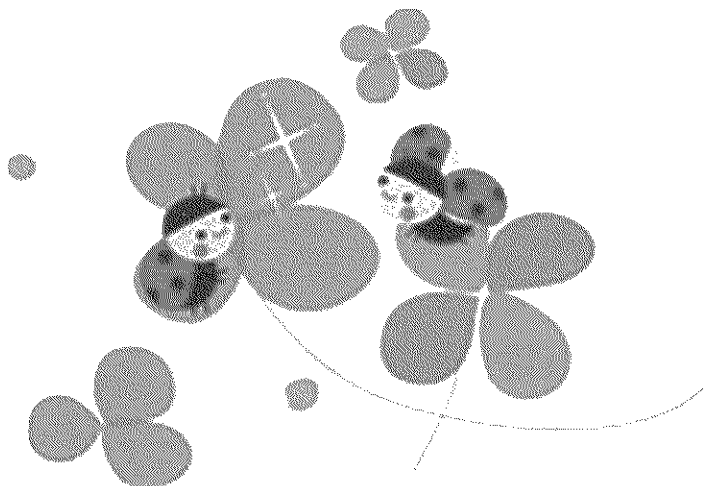
里親会員になって3年が過ぎ、もう無理かもしれないと思い始めた矢先、幼い女の子、しかも2人という話が届いた。しかしその時は我が子の事も大変で、どうしようと思いつきながら目をつむり、えいっと飛び込んだ。

2人の女の子はとても顔色が悪かった。そこで私の中では食べることをまず大切に考えた。天気さえ良ければ保育園の帰り土曜日はいつもお弁当を持って外で食べ、日曜も出掛けたりベランダで食べたりした。夕食はテーブルをおかずでいっぱいにして、一日30品目の食材を目指した。子どもたちは苦しいと言いながらお腹をさすった。しばらくすると顔色もよくなり、頻繁だった発熱や咳も出なくなった。医院通いもすっかり無くなり、そのまま小学校6年間を休みなく通うことができた。

そうして9年が経ち、中学生を送っていたある日、嵐のように別れの時は来た。高校生活もあると思って準備を考えていた矢先のことだった。

神社の帰り道、里子たちと犬の散歩をしながらここでわらびやタラの芽を摘んでそれを夕食にした事を思い出し、私を楽しい気持ちでいっぱいにしてくれた。

そんな里子たちに感謝したい。



～会員寄稿～

里親という家族のかたち

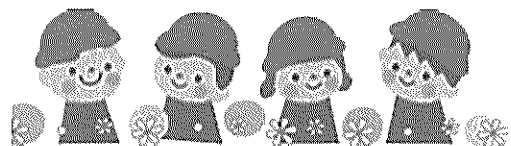
安松 美穂子 (養子縁組里親)

私たち夫婦は、子どもを授かる機会に恵まれませんでした。それでも、家族や健康に恵まれ、幸せな日々をすごしていました。そんな時に、東日本大震災が起きました。報道を通してみる被災の大きさに心が沈む一方で、私が感じたことは、このまま子育てをしない人生でいいのかといったことでした。

里親に登録することに関しては、とても悩みましたし、非常に大きなエネルギーと時間を要しました。里親制度というのは、事情があって生みの親と暮らせない子どものための制度であり、子どもがほしいという大人の方の願望のためにあるものではありません。自分の中の子育てをしたいという思いが自分本位であるだけではないか、その子のありのままを私は全部受け止めきれののだろうか、考えても考えても心は揺れるばかりでした。そんな時、発達心理学者の大日向雅美さんの、「子どもは授かりものではなく、預かりもの」「親は子どもの命を預かせてもらって育てさせてもらっている」という言葉が心にすっとおちました。

里親になるということは、(今のところ)自分の人生において一番の大きな決断であり、あの頃、悩んだ日々は、親になるための準備期間だったのだろうと今となっては思います。私たちの元へ、生後まもないわが子がきてくれてから、もうすぐ5年がたとうとします。日々、たくさんの人にお世話になりながら子育てをし、私自身も育ててもらっています。子育てをするという時間は大変なこともありますが、それ以上に幸せな時間です。子どもが自分の生まれや育ちについて、肯定的に捉えてくれるように、自信をもって生きていける力をつけていけるように、子どものゆれる気持ちを汲みながら、言葉と心をかけていけたらと思い、子育てをしています。

自分で出産し子育てする場合と、里親や養子で子育てする場合とで、子どもと出会うプロセスは違っても子育ての大変さは同じです。最近では、ドラマやドキュメンタリー、新聞などで里親や特別養子縁組が取り上げられることも多く、里親や特別養子縁組といった家族の形が少しずつ知られてきているのではないかと感じています。国の施策も、事情があって生みの親が育てられない子どもは、できるだけ施設ではなく家庭で育てようという流れになっていくようです。子どもには自分が大切にされる場所、自分の帰る場所が必要です。私たちもそうやって育ってきたから、今があるのだと思います。里親や養子という家族の選択肢が増え、自分のことを大切に思ってくれる誰かと出会える子どもたちが増えていくことを願います。



里親出前講座について

DVD「里親になりませんか？」
をご利用ください！！



昨年も里親制度や里親について広く一般の方々に知っていただくため、里親さんと事務局で様々な場所へ伺いました。里親さんが誰でも体験や思いをお話ししていただける場ですので、是非ともご協力をお願いします。

■ 今年度実施した出前講座 ■

- 28年5月 朝酌公民館 (主任児童委員勉強会)
 9月 松江市市民活動センター (民生児童委員常務会)
 10月 玉湯公民館 (松江市民人権講座)
 県人権啓発推進センター (健康福祉部人権同和研修会)
 雑賀公民館 (雑賀地区民生児童委員定例会)
 11月 鹿島町文化ホール (鹿島地区民生児童委員定例会)
 城西公民館 (城西地区民生児童委員定例会)
 29年1月 県立大学短大部松江キャンパス
 (保育学科「社会的養護」授業)

里親会では、各種会合・研修等での里親制度の説明や里親による養育体験発表などの無料出前講座を実施しています。少人数のグループでもOKです。お気軽に里親会にお問い合わせ下さい。

「第64回中国地区里親大会」の開催について

★中国各県の里親及び関係者が一堂に会して行われる本大会について、今年当県出雲市で下記のとおり開催されます。多くの皆様のご参加をお待ちしています★

【期 日】平成29年5月27日(土)～5月28日(日)

【会 場】出雲ロイヤルホテル (出雲市渡橋町 831 番地)

【内 容】■講演

演題「出雲神話に見る父と母と子と・・・」(仮題)

講師 万九千神社 宮司 錦田剛志氏

■テーマ別分科会 ほか (1日目は大会後に懇親会があります)

※託児またはこどもレクリエーションもあります。

当日は出雲市駅から会場までの無料送迎バスがあります。

【申込先】松江地区里親会事務局



【編集後記】

「松江地区里親だより」第11号をお届けします。

お忙しい中、原稿の執筆を快くお引き受けいただいた皆様には、心から感謝申し上げます。

昨年も松江地区里親会の各行事にたくさんの里親さん、里子さんのご参加をいただき、ありがとうございました。

来年度も里親さんと一緒に里親制度の普及推進と相互支援を目指してまいりますので、引き続きご支援・ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。(松江地区里親会事務局)